

講演師・神田香織さん

## 「はだしのゲン」熱演 土浦で平和の集い

講演師・神田香織さんによる「平和の集い」2006講演はだしのゲン」が十二日、土浦

市東真鍋の市民会館で開催された。同集い実行委員会（助川弘之委員長）主催。小学生を

含む約五百人が入場、メリハリの効いた語り口での、被爆した家族の物語に聞き入った。

はかま姿で講釈台に立った神田さんは、手にした小道具「張り扇」を見せたり、「小柄な人でも威風堂々、立派な話にして語るのが、軍記物を語ることの多い講演の特徴」などと、真田幸村を例にあげてまず説明。なめらかな力のコもつた声、生き生きとした表情で聴衆の心をつかんだ。

「本当にあの日はいい天気でした」で始まる「一九四五年八月六日朝」は、「(B29から何か白いものが落ちてきますよ)」の声の直後、ステージ上方からいくつもの白い光が放たれて観客の目を射つた。轟音(ごうおん)が響く中、赤や黒の雲が後方スクリーンに渦巻く。必死で家に走るゲンの前には「シミーズ姿の女性たちの体が青い。ガラスの破片が全身に刺さっていたのです」との描写も。

神田さんは時に仁王立ちになり、また張り扇二面をリズムカルに叩きながら熱演。一時間余りの語りを終えたと大きな拍手を受けた。

「終演後にサインや写真撮影を頼むなど、子供たちの反響がとても印象的。神田さんもおんなことは初めて、と喜んでいた」と、実行委員長の福田勝夫さんは話した。

### 子供たちに大きな反響



にこやかに、時に厳しい表情で熱演する神田香織さん  
土浦市東真鍋の市民会館